

# 2016年度 地域プロジェクト演習 公開発表会プログラム

2016年9月6日(火) 15:00~16:30  
サテライトキャンパス 大会議室

- 1 開会にあたって デザイン研究科長 城間 祥之 教授
- 2 各グループの発表
- 3 閉会にあたって デザイン研究科長 城間 祥之 教授

【発表：16分、質疑応答：8分、入換1分、計25分】

予定時刻	タイトル/研究概要		グループ構成員
15:05 }	【タイトル】	観光都市札幌の飲食店トイレの環境改善ビジネスモデル構築に関する研究 -感染症の殺菌・予防・対策を請け負う事業-	小嶋 真仁 巖 良謙 田中 角栄
	【研究概要】	飲食店のトイレ状況が顧客へ与える印象に大きく関わっているという事実を基に、トイレ清掃を一手に請け負うビジネスモデルを構築した。昨年度に続き、重要課題を以下の3つに設定し各々成果を得た。 ①清掃場所を無菌にできるのか。 昨年度の知見から、除菌効果対時間(目標3分)を基準として用いる薬剤の調査を行った。その結果、ハイプロックスを活用することにより、最短5分での除菌が可能であるとの知見を得た。 ②3分のオペレーションは可能か。 本ビジネスモデルの清掃方法の評価基準を「一般的な飲食店トイレの全体清掃」と定義し、「利用客の視点集中箇所」を踏まえた清掃方法を検証した。手順をタスク分けし検証した結果、「個人差はあるが、3分のオペレーションは可能」との知見を得た。 ③ビジネスモデルのブランド構築。 上記2点の知見をもとに、本ビジネスモデルを通して一般顧客、飲食店オーナーへ与えるべき印象を「先進的な取り組み、解り易いエモーション、清潔感」と定義し、4つの制服を3つのカラー、計12パターン検討し、印象評価を行った。	
15:30 }	【タイトル】	3DCG技術の体験を目的とした小学生向けワークショップ	指導教員 柿山 浩一郎 准教授 三谷 篤史 准教授
	【研究概要】	3DCGを利用したコンテンツは多く見られるようになり、身近に扱える技術になったと言える。また、近年小中学生を対象にした情報教育が世界中で普及しており、コンピュータ技術に触れる機会は今後増えていくと考えられる。本プロジェクトでは、お面という身近なものを題材に、小学生に、より高度なコンピュータ技術に触れる機会を設けることを目的とし、3DCG技術を体験してもらうためのワークショップを札幌市青少年科学館で開催した。本ワークショップは14台のカメラを用いて撮影した参加者の顔を、コンピュータを用いてペーパークラフトに加工し、参加者に制作してもらうというもので、参加者の理解を深めるために3DCGについてのレクチャーも交えながら行った。ワークショップの前後に行ったアンケートによって、はじめは3DCGを知らないと答えていた小学生たちから、3DCGとは何かを知ることができた、楽しいワークショップだったという回答が得られた。	
15:55 }	【タイトル】	札幌市創成東地区と発寒中央地区におけるまちづくりプロジェクト	指導教員 石井 雅博 教授 松永 康佑 講師
	【研究概要】	本プロジェクトは、札幌開拓の歴史の中で異なる発展を遂げてきた、創成東地区と発寒中央地区の新たなまちづくりの提案を目的に、①東4丁目線の再整備計画、②中央体育館跡地に地域交流施設「アツマルバ」の設計提案、③発寒商店街におけるアート作品展示による活性化の実践等のデザイン提案を行い、今後のまちづくりのあり方を示すことを目的とする。創成東地区は、かつては開拓使工業局の中心地として整備され、現在は職住接近の中心市街地として再開発が進む地区である。本学では当地区において、札幌の魅力ある都市軸としての強化を目的に、札幌市との共同研究に取り組んでいる。研究の対象地としては、当地区の骨格軸である東4丁目線と、今後主要な拠点として土地の再利用が想定される中央体育館跡地を選定し、デザイン提案を行った。一方、発寒中央地区は、開拓期に屯田兵村として発展した地区である。現在は住宅地域としての再整備に伴い、商店街を中心にクラフトとアートによる地域活性化が図られている。本学では発寒商店街と連携し「手造(てある)通プロジェクト」に取り組んでおり、プロジェクトの拠点として新設された展示スペースである「836colors」のオープンイベントにおいて作品展示を行った。開拓以来の古い歴史を持つ2つの地域におけるデザイン提案と実践によって、今後の札幌のまちづくりのあり方の一つの可能性を示す。	
16:20	【研究概要】		指導教員 羽深 久夫 教授 山田 良 准教授